峯（みね）のたより

私たちのお寺、長泉寺の会報誌。

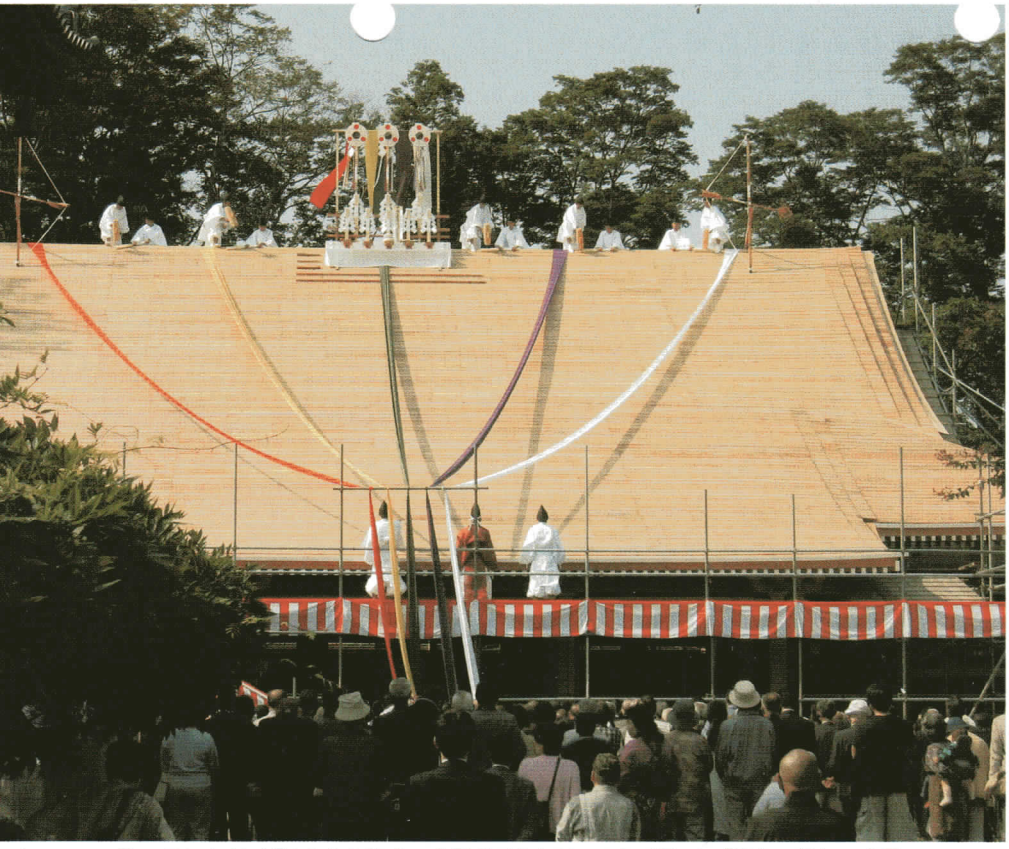
新装刊 001号

2006年12月26日発行

〒981-1505
宮城県角田市角田字長泉寺69番地
電　話　0224（62）1004
ＦＡＸ　0224（63）0063
http://www1.odn.ne.jp/chosenji/

曹洞宗六国峯 長泉寺

国際環境規格ISO-14001認証取得のお寺



10月10日にめでたく行われた上棟式。参列者が心をひとつにして行った「槌打の儀」の光景。

秋晴れの青空にくっきりと棟木が映えた、上棟式。

私たちの心を後世へ伝えたいという願いから始められた本堂再建事業は、いよいよ骨組みまでができあがり、去る十月十日にめでたく上棟式を行うことができました。当日は檀信徒の皆様をはじめとする約三百人もの皆様にご参列いただき、澄み渡った秋の空の下で、棟上げを共にお祝いしました。

日本古来の伝統工法による建築にふさわしく、上棟式は古式に則って執り行われました。屋根からつながる五色の布を引く「曳綱（ひきづな）の儀」や、音頭に合わせて棟木を打ち付ける「槌打（つちうち）の儀」など、ミネ幼稚園の園児たちも一緒になって参列者全員で行う儀式もあり、心をひとつにして創りあげる本堂なのだということを皆で確かめ合う日となりました。

現在は瓦葺きの段階に入っており、使用総数三万六、三三〇枚もの瓦が、日ごとに屋根を覆っていく様子が見られます。重量にして一五万二、〇二二キログラム（約一五二トン）の瓦は、軒部分では坪当たり四五〇キログラムの荷重となります。それを力強く支える大きな屋根を見上げるたびに、本堂再建事業が平成二十年の完成へ向けて着実な進展をしているという実感が得られます。

「曳綱の儀」にはミネ幼稚園の園児達も参加しました。

現在は、この屋根に皆様方よりご奉納された瓦が葺かれています。

本堂再建委員会より

本堂再建委員会委員長　鎌田　稔

檀信徒の皆様方におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

過日は本堂再建につきまして多大のご喜捨を賜り、誠に有難うございました。

おかげさまで十月十日、護持会の役員、観音講の講員、幼稚園関係者、工事関係者等、多数の方々の御列席を賜り、新本堂の上棟式を行う事ができ、皆様と共に心から御喜び申し上げます。

私達檀信徒の信仰の中心的「場」である本堂は、明治元年の大火災後に応急的につくられ再建以来、百二十余年の時を経て度々の修理をくり返してきましたが、最近は傷みが目立ち、本堂の再建は急務でありました。

平成十七年二月、長泉寺では「本堂再建委員会」を結成し、種々の検討を重ねた結果、平成二十年五月完成を目処に、再建することに到りました。

委員会では、「何故、今、本堂を再建しなくてはならないのか」、「本堂再建の原案」、「檀家の負担について」、「地区説明会開催について」、「小川棟梁を囲んで」、「趣旨書の内容」以上のような議題で本堂建築についての勉強会が幾度も行われました。強く要望されたのは、「地区説明会の徹底」と「檀家へのわかりやすい資料」でした。

新本堂は、日本の宮大工として国の内外で著名な小川棟梁の率いる「鵤工舎」にお願いし、日本古来の飛鳥の工人の知恵と技を継承された伝統工法で、誠心誠意つくって頂いております。鵤工舎は寺社専門の建築集団であり、同時に「宮大工」を育成する場所でもあります。工舎は「徒弟制度」を元にし、なによりも大事なのは、生活を共にし、「同じ釜の飯を食う」ことや、現場で仕事をしながら先輩や師匠の仕事を学んでいく処と言われております。宮大工の修業は時間がかかるけれど、それが人を育ててもくれるのです。その様な素晴らしい工人達が全国から集まり、長泉寺で仕事をしているのです。

四百年余の歴史を築いてきた長泉寺にふさわしい本堂が建つものと、檀家一堂誇りにし喜びとしております。この大事業に巡り合わせたことを幸せとし、皆様方の御協力により、無事達成できますよう、心より念願いたします。

上棟式御礼のご挨拶

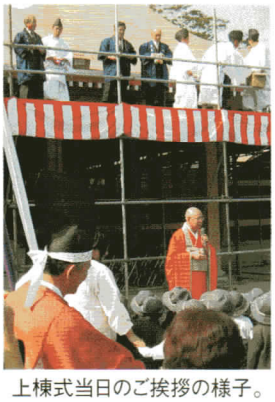
長泉寺住職　奥野　成賢

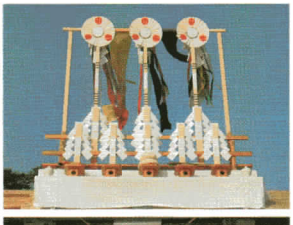
謹啓

師走の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

過日はたくさんの方々のご来臨を賜り無事上棟式を相勤めさせていただき、誠にありがとうございました。衷心より篤く御礼申し上げますとともに、あらためて皆様とともにお祝い申し上げたいと思います。上棟、誠におめでとうございます。

上棟式後には、さっそく奈良から瓦職人さん達十名が入り、平成二十年の完成を目指して瓦葺きの作業が行われております。





上棟式当日のご挨拶の様子。

皆様方よりご奉納された瓦は、ご本尊さま真上の屋根を覆うこととなります。皆様方のまごころでご本尊さまをお守りいただき、仏さまもさぞやおよろこび、ご安心なされていることと思います。ご協力ありがとうございました。

この新しい本堂が私たちに仏恩感謝の安らぎを与えて下さる菩提寺となるよう精進する覚悟でおります。信心のおこころをお寄せいただきましたことに感謝申し上げ、一層のご支援をお願い申し上げ、紙面にて略儀ながら御礼のご挨拶とさせていただきます。

皆様方のご健康とご尊家さまの更なるご繁栄をご祈念申し上げます。

合掌

散華と共に行われる餅撒きも皆で楽しみました。

長泉寺本堂再建に寄せて

鐘楼、坐禅堂、秋葉堂の建築棟梁　加藤 猛雄

4月21日に行われた地鎮式。ミネ幼稚園の園児達と。

四十二世現住職成賢方丈さまの代に入り、かねて念願であった本堂再建に付いて建設委員会を結成され、検討を重ねられた結果、再建することに決定されたようであります。方丈さまを始め建設委員の方々本当にご苦労さまでした。

長泉寺の本堂については福島県の石川町より移転されてより四百有余年、その間二回祝融に遭われたようです。一回目は文政十年（一八二七年）、二回目は明治元年（一八六八年）とその間四十一年のようです。

平成五年六月に本堂の床板（全部）貼替工事をした際に須弥壇の裏板に明治十五年と明記されておりました。そして一年後に本堂を再建されたようですが、大変ご苦労をなされたことと思います。

大正十一年六月長泉寺へ晋住なされた先師四十世説宗方丈さまの代、本堂の茅葺屋根を銅板葺に改修されたのが昭和二年のようです。

軒の垂木の出が短いために、雨の降る度に外の縁側が濡れておったようです。

軒の出がいま三尺長かったら格好もいいし又濡れずにすむと説宗方丈さまが言って居られたと泰弘方丈さまから聞いたことがあります。外廻りですから大変な坪数になるので予算の関係上、止むを得なかったとのことでした。

本堂の天上裏に上ったことがありますが、西側の杉林の枯枝等の落下により銅板屋根に孔があき処々に雨漏ができたのではなかったかと思われます。

此の度本堂再建に依り平成十八年一月より臥牛門の解体が始まりました。元和年間というと約四百年前の建物ですので、柱、野材は良しとしても破風板、屋根の木材等は大分損んでいるようです。二月に入り本堂の解体が始まり、屋根板垂木等が取り除かれ、小屋組を見たところ、処々に古い穴があり古材を少々使用したものと思われます。解体するのに惜しいと思ったのは本堂の向拝（玄関）です。唐破風屋根、特に目についていたのが彫刻ものです。出来得るものならどこかへ保存出来たらと思います。

本堂再建について、あの有名な法隆寺の棟梁と言われた西岡常一氏（平成七年四月十一日、八十六歳にて死去）の唯一人の内弟子である鵤工舎の小川三夫棟梁によって工事が進められております。こうした立派な棟梁に仕事を依頼したことは私も檀家の一人として誇りに思います。

解体工事終了後整地をし四月二十一日地鎮式を行い、基礎工事に入る。地面より可成り掘り下げて巾広いベースの上に布コンクリートの基礎が七月の初めに終了、建前足場が組まれ、八月四日立柱式が行われました。基礎の御影石の上に直径一尺余の円柱が立並び、柱上に大斗、肘木、巻斗、方斗、皿斗等見事に組まれ野材、桁等が上る。

西岡棟梁の言葉に「堂塔の木組みは寸法で組まずに木の『クセ』で組め」とあるが、小川棟梁もこれを実行されているものと思う。四隅に化粧隅木が取りつけられ、前廊、側廊、背廊は化粧垂木。下から見上げると本当に素晴らしいものである。

地垂木、木負、飛擔垂木、茅負、裏甲と取り付けられ、又六尺間隔くらいに長尺の太い丸太「桔木」が取り付けられた。これは大変な仕事である。職人さんの苦労がわかる。「桔木」は瓦の重みで軒先が下がるのを防ぐため茅負に「臍」差とす向拝の「縋破風」又取り付け等は見事なものである。九月二十一日見た両妻の「化粧棟」に「差母屋」に大なる破風板「支外垂木」化粧裏板等又両妻の化粧小屋組は大瓶束、笹竜胆の紋章を表す彫刻はすばらしい。

野隅木がかかり「桔木」の上に小屋束が立つ。これも大変な仕事である。「野母屋」野垂木、野地板が貼られ、これで格好の良い反り屋根が出来上がるのである。

8月4日の立柱式。直径1尺余りの円柱を立てる光景は圧巻。

私たちの郷土・私たちの文化

檀信徒　心ひとつに　菩提寺の
御仏まつる　御堂造らん

いかるがの　匠に託す　寺造り
後の世までも　伝えんとして

長泉寺　造る匠は　日の本の
世界に誇る　宮大工かな

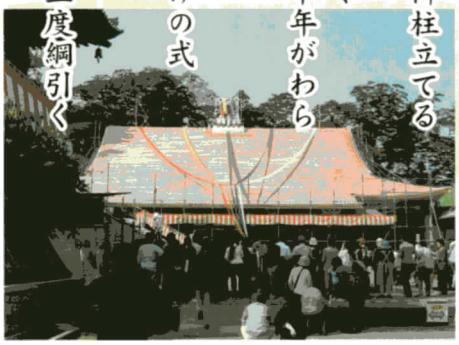
地を鎮め　工事安全　御仏に
祈りて願う　鍬入れの式

夏炎ゆる　葉月のよき日　本堂の
吉野ひのきの　御柱立てる

鐘の音と　まごうね色の　音高く
焼きの確かな　千年がわら

天高く　澄み渡りたる　秋の空
槌音高く　棟あげの式

上棟の　五色の綱の　空に映え
音頭に合わせ　三度綱引く



皆様から投稿いただいた俳句や短歌、写真などの作品を掲載する「紙上ギャラリー」です。記念すべき第１回は、天神町の遠藤昭助さんの作品。八月四日の立柱式を、また十月十日の上棟式を、すばらしい歌に詠んでくださいましたので、ご紹介します。

おたより募集中！

長泉寺の広報・会報誌『峯のたより』は、現在進行している本堂再建事業と同じように、私たち皆の手でつくりだすものです。角田から発信する文化事業として意義ある誌面づくりをめざすため、どうか積極的なご参加を願います。

たとえばこんなおたよりをお待ちしています。

- ◆仏教、曹洞宗、禅などについてのご質問
- ◆本誌やお寺へのご意見・ご要望など
- ◆角田の風物や文化・歴史をテーマとした俳句・短歌・写真などの作品
- ◆身近なニュース、日常の中で見聞きした面白いできごとなど、自由なテーマでのおたよりもお気軽にお寄せください！

下欄の宛先までご郵送いただくか、直接お持ちください。

〒981−1505
宮城県角田市角田字長泉寺69番地
長泉寺『峯のたより』発行所

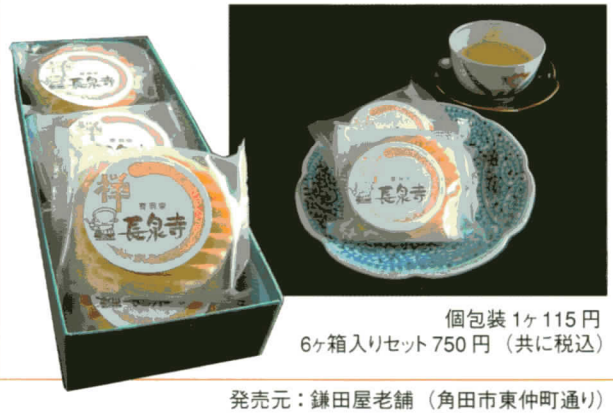
information おしらせ

皆さんはこのお菓子をご存じですか？　ラベルにお寺の名を印字した、長泉寺ブランドのお菓子です。

角田名物としてご贈答用に、またお土産にいかがでしょう。

さっくりとした歯触りで焼き上げたワッフルにクリームをサンドして、軽やかな甘味がふわりと溶けるおいしさ。

ときにはお気軽にお寺へ遊びにいらしてください。お茶を飲み、歓談しながらお菓子の味を試してみてください。



個包装 1ヶ 115 円
6ヶ箱入りセット 750 円（共に税込）

発売元：鎌田屋老舗（角田市東仲町通り）
Tel. 0224-63-2025